



5月に入り、ワーカーズコープ連合会加盟組織は総会の季節を迎えた。連合会常勤者で分担して各総会を回る。

無茶々園の森(5/20)は、古村理事長が講演。廃校を活用した事務所の上に太陽光パネルの設置やみかんを絞ったカスの堆肥化などがはじまるなか、「ごみ」と「断熱」で地域と仕事を育てる提案を行い、50年の節目から新たな先を見据えたビジョンづくりを進める。

とちぎ労働福祉事業団(こらぼワーク)(5/25)は、1988年設立から36年が経過し、企業組合、一般社団法人、NPOと法人格も使い分けながら物流、ビルメンテナンス、便利屋、福祉用具レンタル、障がい者就労支援、高齢者介護、経営支援センターと展開。各部門リーダーを若手が担い、専務理事も40代となり若返りが進む。企業組合を今秋に労働者協同組合に法人移行することを確認。

ワーカーズコープみえ(5/26)は主力の高齢者デイサービスが順調。6つの委員会に組合員が分かれて、ケアの質の向上からリスクマネジメントまで主体的に取り組み、クリーンキラー(次亜塩素酸水溶液)の噴霧によるコロナ対策、ICTによる介護記録のデジタル化の定着、離職者もなくスタッフが充足している。法人の専務理事や事務局の若返りが図られた。

ワーカーズコープ山口(5/26)は、労協法人となり1年が経過し行政や地域からの期待が広がる。社協と連携した海岸清掃、新

たな出会いから竹林の事業化に挑戦。「みんなで作ってみんなで食べる田んぼ」も16年をこえて、冊子が作成された。シイタケやジャガイモも採れるようになり、放課後等デイサービスの子どもたちも携わる小農の取り組みが進む。

はんしんワーカーズコープ(5/26)は、生活困窮者の就労支援や高齢者の就労的活動支援コーディネーターの取り組みが進むなか、仕事おこし講座から生活支援を行うグループづくりが進む。10周年の記念イベントを合わせて開催し、組合員はもちろんのこと、行政、商店街、連携している企業、センター事業団、地元の仲間も加わり祝う。

3つに分かれたケアワーカーズコープ北海道(5/26)やわたすげ(5/29)は、自分たちで総務、経理、経営を担うことや、自分たちの労働条件を自分たちで決めていく活動・就業規約の作成や改定など実感ある組織作りが進む。旭川での就労支援からの組合員就労、わたすげのOGによるサロンづくりとの連携など、特徴を活かしたとりくみが進む。

協同労働推進議員連盟の総会(5/30)も開催され、厚労省より労働者協同組合法人が100近く設立された現状や、今期より5つの県ではじまる周知・設立支援のモデル事業やそれを支援する伴走事業の説明、当事者団体からの各団体の法施行から1年半を踏まえた現状と課題などが出され、活発な意見交換が行われた。